

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 第1章 パート1

.....
このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」

ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

黙示録 1章。

イエス・キリストの黙示。これは、すぐに起こるはずの事をそのしもべたちに示すため、神がキリストにお与えになったものである。(黙示録 1:1)

ヨハネは、神のことばとイエス・キリストのあかし、すなわち、彼の見たすべての事をあかした。(黙示録 1:2)

「彼の見たすべての事をあかした。」ここ、注目して下さい。ヨハネは、人々に伝えようとあかしをしたので、パトモス島でこの黙示が託されたのです。そして、彼は、この驚くべき黙示もあかししました。

みことばを学ぶにしても、祈るにしても、聖書を読むにしても何であれ、あなたがそれを自分のために行うのは勿論のこと、他の人と分かち合うためにするなら、主は途切れることなく、黙示やインスピレーションを与えて下さいます。

この預言のことばを朗読する者 (黙示録 1:3)

ここで言われている「朗読」とは、文字通り「声を出して読むこと」、音読です。

みなさん、聖書は声を出して読みましょう。

私自身音読しないと、大抵アンダーラインを引いている箇所しか目に入らないのです。

それは、殆どの場合が約束のみことばで、例えば、

私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たしてください。

(ピリピ 4:19)

主をおのれの喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。(詩篇 37:4) 等々

アンダーラインを引いていない箇所は、

確かに、キリスト・イエスにあつて敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。

(Ⅱテモテ 3:12)

わたしのために、ののしられたり、迫害されたり、また、ありもしないことで悪口雑言を言われたりするとき、あなたがたは幸いです。

(マタイ 5:11)

このように、好きなみことばだけを追ってしまうのです。だから、私は、聖書はアンダーラインを引いた箇所だけでなく全体を学ぶべきで、しかもその時は、声を出して音読しようと言っているのです。

声に出すことで、耳から入ってくる言葉からも力を得ます。

それは、聖書を読む時だけでなく、祈る時も同じなのです。

神のためではなく自分のために、祈りに集中し神と繋がるために、私はいつも声を出して祈ります。私にはそうすることが必要だから。

この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを心に留める人々は幸いです。(黙示録 1:3)

この間もお話したように、聖書 66 巻の中で唯一この書だけが、祝福を約束しています。具体的に、「朗読し、聞き、心に留める者」への祝福です。

だから、サタンは、黙示録は難しいとか矛盾するとか言って、クリスチャンがこの書を読まないようにするのは、全然難しくないのに。

ということで、

ヨハネから、アジアにある七つの教会へ。(黙示録 1:4)

ここでのアジアは、韓国や日本、ベトナムなどのアジアではなく、当時のアジアは現在のトルコのことで、トルコにある七つの教会なのでしょ。

7は完成数、完成を表す数でしたね。

1週間は7日で、7日目の安息日は休みます。7年毎の安息年には自由になります。ユダヤ人は約束の地に入るため、エリコの町の周りを7日目には7周回りました。すると、町の城壁が崩れ落ちた。(ヨシュア記 6章)

ところで、黙示録を理解するにはヨシュア記がとても参考になります。

なぜなら、ヨシュア (イエシュア) という名前はイエスのこと。

イエス(ヨシュア)がしている事は、全く驚くべき方法で敵を打ち破り、来たる王国へと人々を導き入れることです。ここで言う王国は、天国ではなく千年王国のことで、その方法にユダヤ人たちは驚愕しました。

エリコの町を7日目には7周する。7日目は安息日だから休まなければならない。よって、これは律法違反です。

しかも、契約の箱を担いで。これも律法に背くこと。契約の箱は戦場に持って行ってはならないとモーセの律法に明記されています。

みなさん、ここで全く新しいことが起こっているのです。それについては後でまた話しますが、このようにヨシュア記には、来たる王国のことがはっきりと書かれています。

そして、聖書で完成を表す7という数字は、ここでは国の完成を描写しているのです。

11 節にある七つの教会—エペソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、フィラデルフィアそしてラオデキヤ。

私たちがこれから学んでいくこれら七つの教会は、その始まりからイエス・キリストの再臨まで、全教会史を代表するものであり、全ての教会はこの中のどれかに属するのです。

アジアにある七つの教会へ。恵みと平安が、あなたがたにあるように。(黙示録 1:4 - 5)

みことばの中によく出てくる“恵みと平安”は、単なる挨拶ではありません。

恵みは“カリス”又は“カレス”。

ギリシャ語の挨拶の言葉で、「美なるもの」—美しいもの、好意。

平安はヘブル語の挨拶で“シャローム”。

神が与えて下さる美なるもの、ご好意を知らなければ真の平安は得られません。

あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。(エペソ 1:8)

だから、恵みは平安をもたらすのです。

常にいまし、昔いまし、後に来られる方から、また、その御座の前におられる七つの御霊から、(黙示録 1:4)

また、忠実な証人、イエス・キリスト (黙示録 1:5)

ここに、三位一体が表されています。

まず、「常にいまし、昔いまし、後に来られる方」。勿論これは御父。

御父が永遠の存在であることを宣言しています。

次に「御座の前におられる七つの御霊」。これは聖霊です。

七つの御霊？

イザヤ書 11 章を読んでみましょう。

エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。(イザヤ書 11:1)

これは、後に来られるイエスのことです。エッサイはダビデの父親ですから、エッサイの根株からとは、ダビデの子孫からということ。ダビデの子孫、イエス・キリスト。

その上に、主の霊がとどまる。それは、知恵と悟りの霊、はかりごとと能力の霊、主を知る知識と主を恐れる霊である。(イザヤ書 11:2)

これらが七つの霊です。これで、御座の前におられる七つの御霊のこともわかりましたね。

そして、「忠実な証人、イエス・キリスト」。まさしくイエスは忠実な証人でした。

ピリポはイエスに言った。「主よ。私たちに父を見せてください。そうすれば満足します。」(ヨハネ 14:8)

イエスは彼に言われた。「ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。」

(ヨハネ 14:9)

イエスは本当に忠実な証人で、御父そのものです。御父がどのような方か知りたいなら、御子を見ればいい。神がどのようなお方なのか知りたいなら、御子について学べばいい。御子を通してのみ、神を知ることができるのです。

5 節はまだ続きます。

死者の中から最初によみがえられた方、地上の王たちの支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安が、あなたがたにあるように。イエス・キリストは私たちを愛して、その血によって私たちを罪から解き放ち、(黙示録 1:5)

本当に感謝なことです。

私の父が御子を与えて下さって、その御子の血が私の全ての罪を洗い流して下さいました。

だから、自由なのです。私は自由だ！私は自由だ！私は自由だ！！

どれほどの感謝でしょう。

彼が私たちを洗ってくれました。私たちの罪を覆い隠したのでもなく、上塗りしたのでもなく、記録を燃やしたのでもない。

私たちの罪の対価を支払うために、イエスが血を流したのです。感謝ですね。

また、私たちを王国とし、ご自分の父である神のために祭司としてくださった方である。

(黙示録 1:6)

私たちの罪を洗い流すだけでなく、王国の王、祭司として下さる。

王国？祭司？

イエスの再臨の時、私たちも一緒に戻って来て、イエスと共に千年王国を治めます。

私たちは地位と権威を与えられた王国の王、祭司となるのです。

私たちを王国とし、ご自分の父である神のために祭司としてくださった方である。

キリストに栄光と力が、とこしえにあるように。アーメン。(黙示録 1:6)

見よ、彼が、雲に乗って来られる。すべての目、ことに彼を突き刺した者たちが、彼を見る。

地上の諸族はみな、彼のゆえに嘆く。しかり。アーメン。(黙示録 1:7)

この箇所、私はすごく興味をそそられます。

彼は来る。いいですか？イエスは雲と共に来られるのです。

ところで、携挙について第1テサロニケ4章にこう書かれています。

主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らと一っしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。(第1テサロニケ 4:16-17)

興味深い。この出来事は、先ほどの黙示録 1:7 とは違いますね。

こちらは、私たちが主と会い、それから天国で7年間、主と共に過ごすのです。

黙示録 1:7 は主が戻って来られる時、再臨の時のことです。

見よ。彼は雲と共に来たもう。すべての目は彼を見よう。彼を刺した者たちもまた。

そして、地のすべての民が、彼を悔やんで胸を打とう。(黙示録 1:7 前田訳)

イエスを突き刺したのは誰ですか？

ゼカリヤ書 12:10 にはこう書いてあります。

イスラエルを消滅させるために、全世界がユダヤ人に敵対するメギド平野での戦いがクライマックスを迎えた時、それはそれは悲惨な状況です。まさにその時、主が戻って来られる。

見よ。主は千万の聖徒を引き連れて来られる。(ユダ 14)

みなさんと私です。私たちもイスラエルを助けるために、主と共に戻って来るのです。

また、「あなたの胸にあるこの傷はどうしたのか」と問われると、「それは友人の家で受けたものだ」と答えるであろう。(ゼカリヤ書 13:6 新共同訳)

そこで嘆きが起こる。誰が嘆くのですか？

イスラエルに敵対して戦った者たちです。彼らは主を見るのです。

「すべての目が見る」なんて、世界中の人々が見るとのこと？

これに関しては、技術的には不可能ではありません。

1963年、ジョン・F・ケネディが暗殺された時、世界の3分の2がそれを見たと言います。

去年のサッカーのワールドカップファイナルは、世界中の4分の3が見たということです。

CNNやその他のメディアが中継して世界中が目撃する、そういうことが実現しているのです。

重要なのは、まず最初に、私たちは空中で主と会う。私たちは雲の中に引き上げられ(携挙され)天国で7年間、主と共に過ごします。

それから、再臨の時、イエスは雲と共に戻って来られるのです。

私は、雲とは、ヘブル人への手紙 11章に書かれている、偉大な信仰の人々のことだと思います。そして、

多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いている(ヘブル 12:1)

携挙の時、私たちは空中で、既に天に召されている人々とも会って、一緒に天国に行くのです。

そして、再臨の時は、私たちと彼らとがイエスと一緒に戻って来ます。

見よ、彼が、雲に乗って来られる。すべての目、ことに彼を突き刺した者たちが、彼を見る。

イスラエルが、ユダヤ人たちが、そして、地上の諸族はみな、彼のゆえに嘆く。しかり。アーメン。(黙示録 1:7)

「何てことだ！あれは本当だったんだ。」「彼が来た！」「我々は彼に敵対した！」「彼を信じなかった。受け入れなかった。」「なのに、彼がここにいる！」

嘆き。

ヨハネのこの手紙を受け取る人たちの立場になって、この出来事を見て下さい。

主が帰って来られる。主を受け入れず、みなさんを迫害し、家族を虐殺する者たちがそれを見る。

主が戻って来られる！

万物の支配者がこう言われる。「わたしはアルファであり、オメガである。」(黙示録 1:8)

これは、とても面白いと思うのですが、ここで「わたしはアルファであり、オメガである。」「最初であり、最後である。」と話しているのは誰ですか？見解が大きく分かっていますが、カルトは、これは御父だと言います。そうでしょうか？私は違うと思います。

「わたしはアルファであり、オメガである。」

これには、本当に巧妙な謎があるのです。

アルファとオメガは英語で言うなら A と Z、ギリシャ語のアルファベットで最初と最後の文字です。

ヨハネが御霊に導かれてこれを書いた時、アルファは普通に言葉で“アルファ”と書きましたが、オメガは“Ω”と表記したのです。

どうして、彼は、「アルファ， Ω」としたのでしょうか。

これは誰のことなのでしょう。何を意味しているのでしょうか。

それらに関しては次回に。

祈りましょう。

主よ。今夜、何よりもまず、この国で私たちに与えられている自由に感謝致します。

引きずり出されることも、煮えたぎる油の中に入れられることも心配しないで、又、逆さ十字につけられることもなく、こうして集まり、みことばを学べることを、全ての良いことを感謝します。

政治的に展開されている事態、世界規模で起こっている様々な出来事、これらすべての事が、主の再臨が近いという事実を示していると私たちは理解しています。

その日が着々と近づいていること、あなたが間もなく来られることを、私たちは感じています。

主よ。私たちが目を覚まし、準備を整えてその日を迎えることができるように、切に祈りませう。

また、主よ。このメッセージを聞いている人々の中で、大変な試練の中にいる人たちのため

に祈ります。

主が全てを握っておられること、全てはあなたの御手の中にあり、あなたのご計画の成就に向かって進んでいることを知ることができますように。

父よ。あなたの御子イエスの黙示、彼の力、彼の定められた生涯、彼の権威が、私たち全員の、特に今苦しみの中で、迷い傷ついている人たちの心の支えとなりますように。

主よ。イエスの黙示が私たちには必要です。今夜、毎日毎晩必要なのです。

私たちがイエス様を、何度も何度も、更に深く、更に新鮮な形で知ることができますように。

ここで学んだことを祝福して下さい。私たちはそれを分かち合い、信じ、希望とします。

イエスの御名によって祈ります。

アーメン。

それゆえ、私たちに、自分の目を正しく数えることを教えてください。

そうして私たちに、知恵の心を得させてください。(詩篇 90:12)